

第１回土浦市総合企画審議会 議事録

●日 時：令和３年５月１８日（火） １３：３０～１５：１０

●場 所：ウララ２社会福祉センター ４階講義講習室１・２・３

●出席者：

〔有識者会議委員（１３人）〕

藤川会長、藤井副会長、吉田委員、下村委員、勝田委員、今高委員、栗原委員、
玉根委員、細谷委員、円子委員、松井委員、中川（喜）委員、堀越委員

〔土浦市（１２人）〕

東郷副市長、栗原副市長、川村市長公室長、羽生総務部長、
塚本（隆）市民生活部長、塚本（哲）保健福祉部長、加藤こども未来部長、
佐藤産業経済部長、船沢都市政策部長、岡田建設部長、望月教育部長、鈴木消防長

●欠席者：

〔有識者会議委員（２人）〕

梅澤委員、中川（弘）委員

〔土浦市（１人）〕

入野教育長

●事務局：佐々木政策企画課長、富田主任政策員、小川政策員

●配布資料：

資料Ⅰ 第９次土浦市総合計画策定に当たっての基本方針について

資料Ⅱ 第９次土浦市総合計画（素案）

資料Ⅲ 第９次土浦市総合計画策定に向けた検討資料

参考資料Ⅰ 社会経済動向について

参考資料Ⅱ 上位関連計画の整理について

1 開会

【事務局説明】

2 土浦市総合企画審議会委員の委嘱

【事務局説明】

3 市長あいさつ

- ・経済や環境、ICT 等全てがグローバルとなってきた中、新型コロナウイルスが社会的な問題となり、生活の在り方そのものが大きく変わっており、今後も続いていくものと認識している。その中で、市民の皆様のニーズを捉えながら、生活の変化に対応していくためにも、本市の最上位計画である第9次土浦市総合計画を迅速に策定していきたい。

【事務局】

- ・正副会長を選出するまでの間、市長が議長となり、会議を進めていく。

(委員の紹介)

【事務局説明】

(総合企画審議会条例について)

【事務局説明】

4 土浦市総合企画審議会会長、副会長の選任

【市長】

- ・条例第4条の規定につき、委員の互選により選出するが、選出方法について意見があれば挙手していただきたい。
意見がないため、市長より選出させていただきたい。会長には筑波大学教授の藤川委員、副会長には同じく筑波大学准教授の藤井委員を指名する。

【委員】

- ・異議なし

【市長】

- ・異議なしとのことで、今後の会議の進行は藤川会長に委任する。

(会長・副会長あいさつ)

5 総合計画策定の諮問

【市長諮問書朗読】

6 議事

(1) 第9次土浦市総合計画策定に当たっての基本方針について

【事務局説明】

【委員】

- ・本日の審議会ではどの段階まで話を進める予定なのか。

【事務局】

- ・本日の審議会では総合計画を策定するに当たっての前段部分を進める。社会経済情勢等を踏まえた市の現状も示した上で、どのような課題があるか、本日は課題を出すところまで進めていきたい。次回以降に「課題を踏まえ、どのような施策を講じていくか」という具体の話になっていくような流れで進めていきたい。

【委員】

- ・資料Ⅲに「現状と課題」とある。現状に対する課題への対応は常に行うべきものだと思うが、私は、課題は、目標が定まって、その目標に対していかに乖離しているのか、それが実現できたのか、できていないのか、何に問題があったかということが課題であると思う。皆さんは、どう思われるか。
- ・その点を踏まえて、土浦市が今後10年後、20年後に一体どのような都市になっていくと考えているのか。例えば、京都のように観光都市を目指すのか、工業都市かもしれないし、文化都市かもしれないが、どのような目標をもってこのまちは進んできたのか。土浦市に60年くらい住んでいるが、今まで大きな変化は見られなかった。こんなことをしようじゃないか、こんなまちにしようじゃないかという理想論、あるいは目的の提案がなければ、現状への課題では、現状はどんどん変わっていく。
- ・コロナは一過性のものかもしれないが、町の発展には時間がかかり、10年で変わるものではなく、50年、あるいは100年かかるかもしれない。そういった観点での目標もない中で、現状の課題の整理をすることに何の意味があるのか理解ができないため、教えていただきたい。

【事務局】

- ・長期的な考えとしては、今まで人口減少が一番大きな問題であった。その中で地方創生というものが叫ばれ、本市でも「まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」を策定した。土浦市は2060年に人口11万人弱を目指すといった目標に対し、どういった施策を講じていくかというものを2年前に策定した。以上がコロナ前の土浦市に対する大きな課題であった人口減少社会に対する対応である。
- ・今回は、10年間の計画である総合計画の策定である。冒頭で市長も述べていたが、コロナ禍になり、今まで培ってきた我々の生活の在り方が根本から変わっていくおそれがある。現在策定している施策についてもコロナ禍を前提とした施策に見直さなければならないという状況になっている。こういったことから、今回はまず社会経済情勢を十分踏まえた上で市の最上位計画である第9次土浦市総合計画を策定していきたいと考えている。

【会長】

- ・大きな目標を立てることも重要であるが、現状を把握して課題を見出すプロセスで

進行していくものだと理解している。

【委員】

- ・土浦は具体的にどう変わりたいのか。どう変わるのか。理念がはっきりしていないために、軸がぶれてしまう。軸をしっかりと決め、土浦の市民として「こういう形の土浦にしたい」というものをまず作る。土浦の強みを探していき、組み立てていくことが重要であると考えている。要は、戦略のないまま話を進めていくべきではないと思う。

【委員】

- ・今委員からお話があったように、ここで議論すべきなのは土浦市の戦略的な話ではないか。長期的なゴールを決め、市民に示し、行政と市民が一緒になって大きなゴールを目指すことが重要ではないか。
- ・土浦市の魅力を更に発信することでお金のある人たちが訪れる。そして、資料のⅢのP.13にあたる基本方針の2番目「20歳後半～30歳代を中心とする青年・壮年世代を主なターゲットとした転出超過の改善」の軽減を図ることができる。私はこの問題が一番重要だと考えている。
- ・また、なぜ転入者が少ないのか。近年はIT社会になり、子どもでもスマートフォンを所持している。例えば、市民には市民Wi-Fiを提供するというようなインセンティブなアイデアがあれば土浦に人が戻ってくるかもしれない。私はこの資料に書いてある内容では転入者を増やすことは難しいと思う。
- ・一番大きな問題提起として、土浦はどうなりたいのか。そしてそれを発信し、「日本中から土浦に来たい。土浦で子育てしたい。」といってもらうにはどうすればよいか。ここにいる皆様とそこまで考えたいと思い、本日の会議に参加している。現状と課題の話だけをしても、毎回同じことになるだけである。

【委員】

- ・会長に伺いたい。各自治体の総合計画は最上位計画である。私は、様々な課題を解決するため、計画を策定するに当たって審議会のメンバーで議論を行うという形でいいと思うが、総合計画ではどういった意見を論じていけばよいかご教示願いたい。

【会長】

- ・指針としては数多くの計画に関わっていかなければいけないもので、その中でも一番基本的な指針を立てていくのは総合計画なのではないかと思っている。まずは、市長に指針を伺い、どういった問題・指針があるかを明確にしていくことから始めていければ問題ないのではないかと思います。

【委員】

- ・私も市の方で現状の課題や問題点を整理した上での審議会だと思っていたので、その説明を聞いて考えていこうとしていた。いずれにせよ、人口減少の中で土浦という地区が、大都市部に近いことも含め中途半端になってしまう部分もみられるが、商業の町や農業の町になっていくのか、また、新たに観光の町を目指していくのか。こういった大きな方針も総合計画の中で検討していければよいのではないかと思います。

【会長】

- ・戦略と戦術といった話があるが、戦略なくして戦術を練ってもよいのかということでもあるので、まずは、市の整理を聞いてみて、その上でどのように構造化してい

くのか、その点で議論がなされればよいのではないかと考える。

【委員】

- ・土浦の将来ビジョン、土浦市をどういったまちにしていくかというのは、どこかのタイミングで、市長自らでなくとも、市長の考えをお示しいただいて、そこから練っていけばよいと思う。

【委員】

- ・そのやり方を続けてきた結果が今の土浦市ではないのか。第8次総合計画を読んだが、ここに書いてある内容で市民に訴えたい、個々に訴えたい、市外に訴えたいといった内容がどの程度あるのか。表紙だけか。だったら、何でこんな厚いものがあるのか。市民や市外の人たちに、これを見ていただければ、土浦市の戦略が分かります、ゴールが分かります、どんなまちになろうとしているのが分かります、だったら、ぜひお手伝いしたい、土浦市にぜひ住んでみたいと思うような内容になっているのか。
- ・今の資料に書いてある内容を逐次やっていく、レビューしていくことがいいのか。戦略があって、戦術があって、その上にゴールが必要で、ゴールを達成するために戦略が存在する。だから、ゴールが何か、どんなまちにしたいのか、どうすれば周りから人口が増える、人が来たいというまちになるのか、そのキャッチフレーズは何なのか、それがあれば、おそらく人口は増えたはずだが、今までなかったから人口が下がっている現状になっているのではないか。私たちが土浦を本当に変えるために、今までとやり方を変える必要がある。貴重な時間を使うため、今までのものを見てみましようという考え方もあるが、やり方を変えるということの是非についてお話をする時間をまず設けていただきたいと思う。もし、やり方を変えずに今までのように進めていくのであれば、私はここにいる皆さんの時間の無駄使いであると思う。ゴールの設定について市長にアドバイスをするのも私たちの責務であると思うし、私としては、市長の掲げているものに合うか合わないかはあると思うが、戦略をアドバイスするのか、しないのか、最初のスターティングポイントを決めないとこのまま進めていっても同じことが起こって、人口は減少するのではないか。

【事務局】

- ・第8次の総合計画でどのような事業をやってどういった成果があったか等を説明できればよかったが、今回は説明資料がそろっていないため、本日の審議会については現状の部分の説明し、議員の皆様にご共通認識をもってもらいたい。
- ・2回目以降の審議会では事業の方向性の部分、将来像や施策の大綱を議論できればと考えている。

【会長】

- ・目標を立てるのは重要だが、戦略の前に戦況を把握することが必要である。現状は過去の積み重ねであり、そこを確認するところから始めていくのは間違いではないと考える。

【委員】

- ・土浦市には、多様な人が住んでいるのであるから、考えを決めてかかるのはあまりよくない。会社の経営や企業戦略とは違い、一つの都市を形成している私たちはそれぞれ考え方が違う人の集まりなので、市の方向性については、市議会なり、市の執行部なり、市長なりといった立場の人たちが決めていくことである。しかしなが

ら、基本構想は市の最上位計画であるから、決定に当たっては、まずは、学識経験者や市民の方といった有識者が集まって話し合いをするということであり、この場では、決めてかかるよりも、今までの現状を把握すること、次にそれぞれの方が意見を出すこと、そしてそれをまとめていくということでのよいのではないか。あまり決めてかかると偏った方向に向かっていくおそれもある。

(2) 基本構想（素案）について

【事務局説明】

【委員】

- ・地勢や観光等の話が出てきたが、日本古代史学会の会長を務めていた田中英道氏によると、高天原は関東圏にあったこと。もう一つは日本で神宮と呼ばれるものは明治までの間に3つしかなかった。1つは伊勢神宮、そして鹿島神宮と香取神宮である。霞ヶ浦の海岸に夢のある、ロマンのある物語があるので、この物語を利用したい。地図を示す際につくばと土浦だけを取り上げるのではなく、歴史的な物語を持つ鹿島神宮を入れてはどうか。

【事務局】

- ・その範囲で示すとなると土浦市が小さくなるが、一度鹿島神宮も示したものを作成し、次回報告したい。

【委員】

- ・土浦市で作成した県南まで入っている地図は、鹿島神宮も含まれており、参考になるとよいのではないか。
- ・例えば、観光面においてうまく活用する例として、JR はドローンタクシーを実現したいと考えており、駅のそばの広い場所で実験をスタートしている。ドローンタクシーで、土浦市から鹿島神宮まで人を運ぶ拠点を JR と一緒に実施することも可能と考えている。

【委員】

- ・資料Ⅱ基本構想の序章、第1節の「社会経済情勢等の変化」について、これは環境の変化と捉えてよいと考えているが、社会経済情勢等の変化を人口減少等の社会環境の変化の面だけで捉えるのはどうかと思う。脱炭素、脱温暖化等の自然環境に対する土浦市の対応についても、具体的な記載があるべきではないか。
- ・土浦市は人口減少等の社会環境の変化に対する対応に重点を置いているが、自然環境問題の解決を図るという切り口も大事なのではないか。

【事務局】

- ・委員の御意見の部分については、地球環境問題という大きな枠組みの中で、資料Ⅱの P. 6～7において取り上げている。この項目に関して内容は固めきっていないので、松井氏の意見も取り入れていきたい。こういった形で取り入れていくかは今後検討していきたい。

【会長】

- ・環境問題はグローバルな印象があるが、土浦市としてのローカルな考えも記載する必要があると考える。

【副会長】

- ・今回配布された資料自体の完成度は高いと思うが、第8次総合計画の延長の計画になってしまうため、安定感はあるが、もう一步踏み込んでもよいのではないか。特に、重要になってくるのは基本構想のP.26、序章の第3節の書き方である。
- ・基本構想の序章の第3節の書き方については、現時点では日本の現状としてはよく記載されているが、土浦単体で見たときに現状が見えにくいと感じた。前段に記載してある社会情勢の整理等の部分について、土浦だったらどういう状況になっている、その影響を受けている人たちにどう応えていくのかなど、土浦にリアルに具体的にフォーカスを当ててほしい。
- ・基本構想の序章の第3節は、課題の取りまとめだけではなくて、今後の計画や発展の手がかりのような形で踏み込んで分析できれば、この後に続くまちの将来像も具体的になると感じた。また、将来像のフレーズについても、明るくてよいフレーズであると思うが、誰にとって、どの立場の人を対象にしているのか具体的に示したほうがよいと考える。

【事務局】

- ・今後、課題の整理で方向性が見えるような形で整理をしていく。第2回審議会では基本目標を提示する予定であり、具体的な部分については、基本的には基本目標に委ねていくが、基本構想の序章の第3節については、基本目標とのつながりが分かるよう意識して整理を行っていく。
- ・P.29の将来像が誰にとってか、という部分については、土浦市民、年齢等に関係なくということであるが、5,000人を対象に行った市民満足度調査において、全8地区・全年齢層で「賑わい」についての満足度が低く、そのような結果を踏まえ現在の将来像を設定した。

【委員】

- ・この計画は、土浦市の最上位の計画であるということであるが、市民まで響いてきていないような実感を持っている。この計画は、土浦市の生活する全ての人に関わる施策が網羅されているように記載されていると思うが、自分たちの地域でこの計画のこの部分はこうした方がいいねといったように、この計画の記載内容が自分達の生活にどのように関わっていくのかを、行政のサポートを受けながら地域の人たち皆で確認することができるよう、総合計画をもっと市民へ具体的に届けていかないと、先述のように計画のための計画で終わってしまうと考える。

【事務局】

- ・今回の審議会ですべてできあがったものを用意できればそういった意見の議論ができたが、2段階に分かれており、本日は市の現状を皆様で共有し、それを踏まえて課題を見つけていく段階である。具体的な方針は次回以降に提示する。

【委員】

- ・次回の審議会ではアンケート結果は提示可能か。

【事務局】

- ・アンケート結果については、次回説明させていただきたいと考えている。5,000人を対象として、回収率が48%という最近では一番回答率が高いものであった。

【委員】

- ・具体的な施策は次回提示するとのことだが、私たち住民に具体的に何をすべきかまで示してほしい。地域住民が一緒に取り組まなくては、計画が計画で終わってしま

う。

【事務局】

- ・委員御指摘のとおり、現行の総合計画では、市民に具体的にこういったリアクションを起こしてもらいたいのか分からない計画になっていると考えている。したがって、資料Ⅰの初めに示したように、今回策定する第9次総合計画では、従来の三層構造から基本計画を廃し、二層構造に組み替えることとした。これは、これまで、基本計画が個々の事業を進める上で妨げになっている面もあったと思われるため、個別計画に委ねる形とした。総合計画の策定に伴い、個別計画は柔軟に動いていくので、個別計画において、市民がどのように行動を起こしていけばよいのか示していきたい。

【委員】

- ・市民が資料を何十ページも読んで内容を理解することは難しいと思う。できれば、基本構想を一枚見れば全て理解できるような資料があれば、戦略的な、高いレベルからの、皆さんの知見を生かした議論ができると思う。次回までに用意できないか。

【事務局】

- ・次回、まとめのような形でお示しできるよう対応したい。
- ・今回提示したのは、基本構想の内容のうち全体の半分くらいである。実際これに向けてどういった施策を講じるかということを、次回以降お示ししたい。

【会長】

- ・時間のため、閉会とする。

7 その他

【事務局】

- ・その他意見や不明点があれば、意見書を5月24日（月）までに御提出いただきたい。
- ・次回の有識者会議は、8月3日（火）の午前9時から市役所本庁舎2階男女共同参画センター研修室で開催したい。

8 閉会

以 上